

SDGs未来都市等進捗評価シート

2022年度選定

山形県長井市

2023年9月

SDGs未来都市計画名

自治体SDGsモデル事業
又は特に注力する先導的取組

長井市SDGs未来都市計画 ～ 循環で繋がるまち 長井 ～

—

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

(1) 計画タイトル

長井市SDGs未来都市計画 ～ 循環で繋がるまち 長井 ～

(2) 2030年のあるべき姿

近年、加速度的に進む人口減少は市の存続に関わる最も重要な課題となっている。人口の減少に歯止めをかけるためには、子育てだけでなく職場や地域でも活躍する「子育て世代」が定着することが必要である。

子育て世代が定着することにより、すべての世代が生き生きと生活し、活躍できる好循環を生み出し、長井市の将来像が実現する。

(3) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた優先的なゴール

経済	社会	環境
		 

(4) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

No	指標名 ※【】内はゴール・ターゲット番号	当初値	2022年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
1	インキュベーション、サテライト、レンタルオフィス、eスポーツスタジオの利用者数【8.2】	0 人	4938 人	20,000 人	25%
2	本事業によって創出した雇用の数【8.3】	0 人	44 人	200 人	22%
3	MaaSとスマートストアの決済金額（累計）【9.1】	0 円	3,661,000 円	220,000,000 円	2%
4	ながいコインによる決済金額（累計）【9.4】	0 円	326,527,000 円	300,000,000 円	109%
5	レインボープランの理念と精神を土台としたバイオガス発電施設の建設【7.1】	0 件	0 件	1 件	0%
6	レインボープラン参加世帯数【12.5】	5,000 世帯	5083 世帯	5,000 世帯	102%
7	レインボープラン参加農家数【12.5】	17 件	15 件	30 件	-15%

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

（5）「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

【経済】

・NO.1「インキュベーション、サテライト、レンタルオフィス、eスポーツスタジオの利用者数」について、順調に進捗している。新しいビジネス人材の育成のためにデジタル人材のすそ野を広げることを目的とした子ども向けプログラミング教室やeスポーツ大会の開催等によって地方創生に必要な人材確保を引き続き推進する。

【社会】

・NO.3「MaaSとスマートストアの決済金額」について、MaaS（市営バスのデジタル化による公共交通の最適化事業）は、定時定路線の市営バスにRFIDやタブレットを導入することで、利用者の属性情報や利用区間等の情報を収集している段階であること、スマートストアは、アプリの初期設定やストアの使い方といった最初期の利用方法のハードルが高いことが課題となっており、数値が伸びていない。課題解決のため、周知方法を改善し、最初期のハードルを低下させる必要がある。

・NO.4「ながいコインによる決済金額」について、展開開始に伴う施策として、従来のプレミアム商品券に相当する「ながいコインプレミアム」の販売やサポート商品券相当の「ながいコイン（ながいのまちサポート）」の配布により、大幅な目標達成の数値となった。

【環境】

・NO.5「レインボープランの理念と精神を土台としたバイオガス発電施設の建設」について、本市で25年間継続する循環型地域づくり事業「レインボープラン」は、食品残渣を堆肥化し農業に繋げるサーキュラーエコミー（循環経済）である。このレインボープランを礎に、現在は限られた市民参加によって実践されるレインボープランへの参加者を拡大し、さらに再生可能エネルギー創出を中心とする新しい循環の在り方を形成する必要がある。このため、2023年に「バイオガス発電施設の導入可能性調査」を予定している。この準備期間であるため、達成度の動きはない。

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2022年～2024年

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2022年実績	2023年実績	2024年実績	2024年目標値	達成度(%)
1	循環型地域づくり事業	レインボープラン参加世帯数	5,000 世帯	5,083 世帯	世帯	世帯	5,000 世帯	102%
2	循環型地域づくり事業	レインボープランの理念と精神を土台としたバイオガス発電施設の建設	0 件	0 件	件	件	1 件	0%
3	循環型地域づくり事業	再生可能エネルギーの供給を受ける施設数	0 施設	0 施設	施設	施設	3 施設	0%
4	いつまでも便利に安心して暮らせる「スマートシティ長井」実現事業	MaaSとスマートストアの決済金額	0 円	3661000 円	円	円	74,982,000 円	5%
5	いつまでも便利に安心して暮らせる「スマートシティ長井」実現事業	ながいコインによる決済金額	0 円	326527000 円	円	円	107,000,000 円	305%
6	いつまでも便利に安心して暮らせる「スマートシティ長井」実現事業	eスポーツ参加者数	0 人	1168 人	人	人	3611 人	32%
7	学校ICT教育支援体制構築事業	ICT教育支援チーム体制の構築（人的支援の強化）	1 人	3 人	人	人	3 人	100%
8	産業振興交流拠点タス再整備事業	インキュベーション、サテライト、レンタルオフィス、eスポーツスタジオの利用者数	0 人	4938 人	人	人	11050 人	45%
9	産業振興交流拠点タス再整備事業	本事業によって創出した雇用の数	0 人	44 人	人	人	80 人	55%

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2022年～2024年

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2022年実績	2023年実績	2024年実績	2024年目標値	達成度(%)
10	新産業団地整備事業	産業団地入居事業者数	0 件	0 件	件	件	5 件	0%
11	新規就農推進事業	新規就農者数	0 人増	3 人増	人増	人増	6 人増	50%
12	水素自動車導入促進事業	水素ステーション設置数	0 箇所	0 箇所	箇所	箇所	1 箇所	0%

(2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

第一に市民のSDGs理解促進を図るため、レインボープラン等身近な事例を用いながら、市民に馴染みのある「コミュニティFM」を活用した放送（収録）を年に10回設け、普及・啓発を実施している。

また、中心的取組と位置付ける次期レインボープランの構築において、市民参加の拡大は欠かせない要素である。しかしながら、とりわけ導入初期において、市民は、参加による金銭的、精神的な負担を感じやすく、また時間的な制約を与える可能性がある。このようなデメリットは、市民参加拡大の障害となる。市民参加拡大のために、このような障害を取り除く制度設計を2023年に予定している「バイオガス発電施設の導入可能性調査」の中で明らかにしたい。

(3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

全体計画の「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」とおりであるが、その他については下記のとおりである。

- ・NO.6「eスポーツ参加者数」について、順調に進捗している。
- ・NO.7「ICT教育支援チーム体制の構築（人的支援の強化）」について、順調に進捗している。
- ・NO.11「新規就農者数」について、順調に進捗している。
- ・NO.10「産業団地入居事業者数」について、現在、新産業団地の整備中であるため、達成度の動きはない。
- ・NO.12「水素ステーション設置数」について、本市に本社を置く株式会社マツキより、同社が経営する自動車学校の教習車に水素自動車を導入することの提案があったため、同社及び関連金融機関と水素関連の勉強会等に積極的に参加し、情報収集に努めている段階である。

(4) 有識者からの取組に対する評価

- ・コロナ中であって、サテライトオフィス利用者、MaaS利用者、ながいコインの利用拡大等、経済分野では大きな成果が見受けられる。今後も継続して、積極的な取組推進に期待する。
- ・ながいコインの決済額が大幅に増加していることに関連し、他のスマート決済等への展開の検討についての説明が望まれる。